

1 第168号

日経平均株価

2万1425円51銭

▼38円72銭(前日比)

TOPIX

1609.52

▼3.98(前日比)

2019

2/25

月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



# 風力発電インフラ輸出

## 政府、再生エネルギーに重点

政府は風力発電でインフラ輸出を拡大させる



再生可能エネルギーの本命として、風力発電がクローズアップされている。再生

世界2位の

インフラ輸出については日本が世界的に高技術力を誇る鉄道や医療などの拡大が期待されているが、エネルギー分野では日立製作所(6501)が英国での原子力発電所計画を凍結したことで苦境に立たされている。

そのような中で、政府は再生可能エネルギーの輸出計画に金融機関が融資しやすい環境を整えることが伝えられた。6月にもインフラ輸出戦略を改定し、2020年までに輸出額を30兆円とする目標ことが伝えられている。

可能エネルギーについては太陽光発電がこれまでの主流だったが、日照時間などで発電量が一定ではなく、欧州では風力発電が主流になりつつあり、政府が支援することで欧州勢を追撃することになる。風力発電では居住に影響を与えない洋上風力がクローズアップされており、

### 三菱重工や丸紅、東レなど

輸出系では米中貿易摩擦の影響でスマートフォン向けの電子部品や自動車産業の一部に影響がでているが、インフラ輸出については再生可能エネルギーが新たな成長分野に浮上する期待がでてきた。政府はインフラ輸出を拡大させるべく、その重点分野として風力発電などの再生エネルギー分野に重点を置くことが伝えられており、融資面での支援強化などが具体化すれば、世界的に関心が高まっている風力発電の輸出増が進むことになりそうだ。関連銘柄にスポットを当ててみた。

のシェアを持つ「MHVヴェスタス」に出資する三菱重工業(7011)や英国(7011)や英国洋上風力据付大手を買収した丸紅(8002)あたりが関連銘柄の本命として挙げられる。

太陽光・風力・バイオマスなどの自然由来の資源を利用する再生可能エネルギーを幅広く手掛けるコムシスホールディングス(1721)、風力発電の回転羽根(ブレード)を手掛ける東レ(3402)なども注目される。

日経平均日足チャート



今週の動意銘柄

ブリヂストン急反発

自己株式取得枠設定を発表

週明け18日、ブリヂストン(5108)が急反発。同社は15日の取引終了後、自己株式取得枠の設定を発表したことを受け、需給改善による株価浮揚効果を期待した買いを集めた。上限5700万株(発行済株式総数に対する割合7.06%)または2000億円で取得期間は2月18日から12月23日まで。

アトス。希薄化

18日、アトスパーク(3663)がストップ安。第三者割当による行使価額修正条項付新株予約権の発行を発表したことで、希薄化と需給圧迫を懸念した

売りがかさんだ。M&Aに関連する借入金返済が目的で、135万株を野村證券に割り当て、手取概算12億6000万円を調達、潜在株式数は19.84%となる。併せて発表した19年12月期の連結業績は、営業利益2億5600万円(前期比31.7%減)と大幅減益を予想し、嫌気された。

シノケンGアク抜け

18日、シノケングループ(8909)が急反発。19年12月期の連結業績は営業利益86億円(前期比27.4%減)と大幅減益を予想したが、収益悪化は予想されており、あく抜け感から買いが優勢になった。個人向け融資審査期間の長期化の影響を考慮し、慎重に見積もった。

正直いいさんの株で大判小判

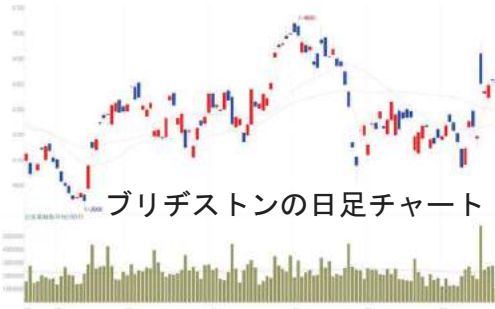
22日の東京市場は5営業日ぶりに反落です。経済指標が市場予想に届かず前日の米国株式が下落した流れを引き継ぎ、利益確定売りが優勢でした。ただ、日経平均は前日までの4営業日で560円超上昇しており、適度なスピード調整といったところでしょう。全般強い状況ですが、一方スガ前日に続いて一時ストップ高IPOとなる、上げるなど、は旺盛です。週明けも話題性の高いIPOが目白押し含めて中小型物ピックアップ(754)は5G好決算発表を受けた連想買いに切り返しました。トラ

5G関連の押し目買い

中小株への物色意欲で、セカンドラッシュは続きそうです。銘柄ではアンリツ(6754)は5G関連の米キースサイトの連想買いに切り返した。トラ



花咲翁



ブリヂストンの日足チャート

ピーシーエー上方修正

19日、ピーシーエー(9629)が一時ストップ高まで買われ、昨年来高値を更新した。19年3月期の連結業績予想について、売上高を104億8600万円から115億1800万円(前期比17.7%増)へ、営業利益

チームスピ大型採用

19日、チームスピリット(4397)は大幅高で最高値を更新。新働き方改革プラットフォームフォームの上位バージョンが三菱地所(8802)に採用されたと発表し

日本テレホン高

19日、日本テレホン(9425)がストップ高。NTTDコム(9437)が「SIMロック」について、20日から中古品も

AOITYO24%減益

20日、AOITYO(3975)が

急落。19年12月期の連結業績は、営業利益26億円(前期比24.3%減)と大幅な減益を見込んだことを嫌気。上限50万株(発行済株式総数に対する割合2.1%)の自社株買いを発表したが反応は鈍い。

### 企業観察 ハリマ化成G (4410)

## 今3月期計画を上回って推移

ハリマ化成グループは19年3月期第3四半期累計で連結経常利益40億200万円(前年同期比28.4%増)と大幅増益で着地、併せて発行済株式総数の3.84%にあたる100万株を上限にした自社株買を発表したことで、株価は改めて割安修正に動き始めた。3Qは製紙用薬品が大幅に伸びたほか、印刷インキ用、塗料用樹脂、脂化成品粘着剤用樹脂、ソルダペーストや半導体用機能性樹脂など電子材料いずれも前年を上回り、収益性が向上した。4Q以降は電子材料など一部に米中貿易摩擦の影響は出ているものの、松ヤニを

## 年間34円配当ベースに還元強化

原料とする植物由来の同社製品への引き合いは世界的に強く、円安もプラスに働く。通期予想の経常利益45億円(前期比12.3%増)に対する3Qの進捗率は88.9%に達し、収益は計画を上回って推移。来期は持分法会社化したサンパイン社がフル貢献するうえ、中国山東省の製紙工場も稼働することから一段の業績拡大が有望だ。今期は年間34円(前期23円)へ増配するが「今後は34円を安定配当に還元を強化する(会社側)方針で、現予想でPER8倍割れ、利回り3%超は見直し余地が大きい。

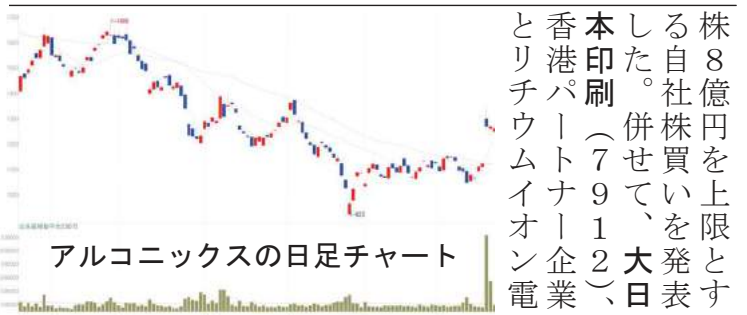
21日、アンジェス(4563)がストップ高。20日に開催された薬事・食品衛生審議会再生医療等製品・生物由来技術部会で同社が昨年1月に重症虚血肢の適応で承認申請したHGF遺伝子治療AMG0001(コラテジエン)が期間限定で承認されたことを材料視した。詳細はコラム「高野恭寿の株式情報」これで

「じゃ!!」で昨年から紹介している。21日、アクセルマーク(3624)が急落。17年9月に発行した新株予約権90万株を取得、消却する一方、120万株の新株予約権を第三者割当で新たに発行すると発表したことで、希薄化と需給圧迫を警戒した売りがかさんだ。

## アルコニク値上りトップ

### 増配、自社株買とリチウム合弁

20日、アルコニクス(3036)が東証1部値上げ利率トップ。19年3月期の期末配当を20円に引き上げ、年間配当を39円(前期32円)に増配するとともに、発行済株式数の2.8%にあたる74万



20日、ソースネクスト(4344)が急伸。世界的ブランド「VEGAS」の、VRコンテンツ制作ソフト「VR Studio」を発売することを発表した。360度撮影したビデオや写真に、テキスト・画像・音声・動画を組み合わせ、リアルなバーチャル空間を創ることができるソフト。

## 新値八手十手

昨年クリスマスイブを底にNYダウは8週間上げ続けてきました。週末22日の終値が2万5883ドル以上であれば9週連続上昇となります。21日は若干割り込んでいますので終値には注目です。酒田五法では「新値八手十手」といい相場の佳境期に用いられる格言があります。NY市場は上げも下げも一方通行のマーケットであり、方向転換となれば、しばし値幅を伴った調整期間入りが見込まれることとなります。更にNYダウは昨年1月高値、10月高値に対する三尊天井形成という見方も取れなくはありません。方向転換すればそれなりに値幅を伴った下落が想定され、軽微な調整としても8週間の上昇に対する三分の一押し(1400ドル)ぐらいはあっても不思議ではありません。その場合は東京市場も連れ安することが予測されますので注意が必要です。

日々勇太郎

## アンジェスはストップ高



## 転ばぬ先のテクニカル

英和 (9857)

# 新規顧客開拓を進める 第3四半期71%営業増益

備投資案件を取り込み、官公庁、化学品製造業、機械製造業、船用機器製造業、

売上高375億円目指す

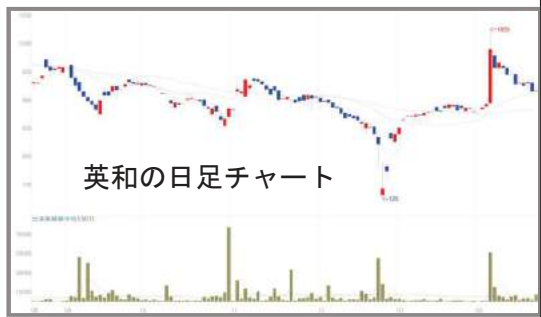
英和(9857)は計測・制御機器に強みを持つ技術専門商社で組立・製造子会社を擁し、高い技術力が評価され、大手企業を中心に数多くの固定顧客を有している。独立系であることからあらゆる製品を提案することが可能で、さまざまな分野で同社のビジネスチャンスが拡大している。

第3四半期累計(2018年4月~12月)の連結決算は売上高258億7300万円(前年同期比11.8%増)、営業利益8億9400万円(同70.9%増)、純利益は6億1300万円(同71.9%増)と大幅な増収増益となっている。成長性の高い分野での新規顧客開拓を推進し、これまで拡充に取り組んできた全国の営業拠点網を活用。社会インフラ設備への公共事業投資や高水準な企業収益による設

電力会社を中心に引続き販売は好調に推移している。通期は売上高355億円(前期比3.3%増)、営業利益12億円(同12.8%増)、純利益7億5500万円(同3.0%増)と従来見通しを据え置いた。

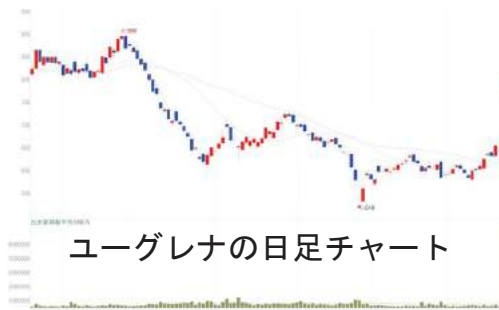
システム・エンジニアリング対応力やフィールドサービス対応力といったソフト面の強化と輸入商材の拡大、新規特定市場の開拓による持続的安定成長を推進すること

で、3年後の2021年3月期に売上高375億円を目指す。



## 特選銘柄

業投資や高水準な企業収益による設



21日、ユーグレナ(2931)がストップ高で、東証1部値上がりトップに立った。20日、デンソー(6902)と双方の微細藻類に関する知見を持ち寄り、さまざまな事業の実用化に向けた包括的な提携をすることで基本合意したと発表したことを受け、幅広い分野への新規事業創出による業容

ユーグレナ値上りトップ

デンソーと微細藻類で包括提携

変貌を期待した買いが殺到した。今回の

## ラサエ一時S高

高純度黒リン量産技術確立

22日、ラサエ(402)が急伸、一時ストップ高を買われた。高純度黒リンの量産技術を

提携はバイオ燃料事業の開発、微細藻類培養技術の研究開発、藻類の食品・化粧品などへの利用、微細藻類による物質生産を目的としている。

## サインポス合併設立

22日、サインポスト(3996)がストップ高。JR東日本スタートアップ(JRES)とAI無人決済システム「スーパードラレジ」

確立したと伝わった。高い安全性を持ち、二次電池の容量を5〜7倍にする次世代負極材やグラフェンに次ぐ二次元半導体原料として工業化に向けたスケールアップのめどもつけられた。触媒や医療を含めた幅広い用途・企業探索を進め、黄リン、赤リン

今週の動意銘柄

## 潮流

## 勢い付くバイオ株相場

## 遺伝子治療への国の姿勢が追い風

marKet/bAnk

2月20日に厚生労働省の専門家会議で足の血管を再生する薬と血液がん治療薬が承認された。血管再生薬については日本企業初の承認事例となる。体内に遺伝子を入れて病気を治す「遺伝子治療薬」が今年5月にも日本で初めて登場する。

血管再生で承認されたのは、アンジェス(4563)が開発した「コラテジェン」だ。重症の動脈硬化で血管がつまった足に、新たな血管を作る遺伝子を注射して治療する。このニュースを受けて21日の寄り付き前からアンジェスに買い注文が殺到し、ストップ高で取引を終えた。「コラテジェン」は1万5000人程度の患者数で国内だけでの収益化は難しい。市場規模が大きい米国での成功が欠かせない。米国で臨床試験(治験)計画を策定している段階だが、国内での承認はこの交渉を進める上での第一歩として評価できる。今後の株価は米国での治験計画の進展をにらみながらの推移となるだろう。

さらに、スイス製薬大手ノバルティスが開発した白血病などのがんを治療する「キムリア」も承認された。3月にも正式承認する見通し。「キムリア」の承認を受けて、「キムリア」の副作用の

前処置に使われるシンバイオ(4582)の「トレアキシシン」に対する注目度が高まった。厚労省は22日に新薬の承認の可否などを検討する薬食審・医薬品第二部会を開催し、「キムリア」の副作用、前処置に使う

医薬品が議題にのぼる見通し。

シンバイオは「キムリア」の併用薬として抗悪性腫瘍剤「トレアキシシン」を開発しており、「キメラ抗原受容体T細胞(CAR-T細胞)」による新薬を処方する前に使えるよう当局に製造販売の承認を申請している。シンバイオの株価は急上昇し、出来高は6700万株と全市場で2位と大商いとなった。東証全体は薄商いが続いており、バイオ株の好材料銘柄に資金が集中して入る。先端医療分野の専門家たちで構成する厚労省の会議で了承されたことで、遺伝子治療薬に対する国の姿勢が前向きであることが明らかになった。

今回の承認はアンジェスだけでなく、バイオ銘柄全体にも良いニュースだ。年初からバイオ相場が続いている。1月30日に「サンバイオショック」があったが、それも一時的でバイオ株相場は健在だ。

潮流銘柄はアンジェス(4563)、シンバイオ製薬(4582)、メディシノバ(4875)。

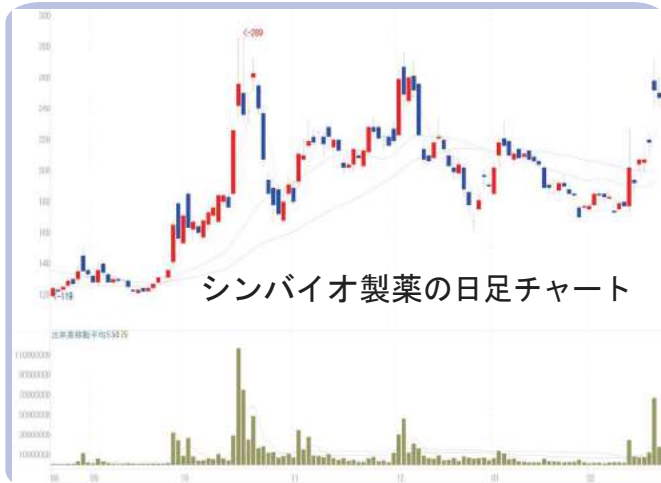
ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山 憲史氏(株式会  
社マーケットバンク代  
表取締役)のプロフイ  
ル

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

薄商いが続くなか資金集中



# 長期上昇波動を持続

## 実体経済底堅く金融政策も機能

### 光世証券

### 取締役 西川 雅博 氏

年明け以降戻り歩調が続く日本株だが、米国株に比べてピッチは鈍い。昨年10月高値から12月安値までの下げ幅に対する戻り率は、NYダウの80%以上に対して日経平均は43%。FRBの姿勢が変わり、金融面からの支援があったとは言え、日本株の出遅れは否めない。米国では12月の小売売上高に続き、2月のフライデルフィア製造業景気指数がマイナス4.1と市場予想（プラス1.4）を大幅に下回るなど、経済指標の悪化が相次いでいる。ただ、政府閉鎖による一時的要因によるもので、3月には持ち直すとの楽観的な見方が多いようだ。さらに、指標悪化がFRBのハト派政策転換を後押しするとすれば、低金利下での持続的成長という、株式市場にとって好都合の環境が整っていると見える。

米中貿易協議は3月1日の猶予期限を前にギリギリの交渉が続くが、最終的に合意され追加関税は回避されるだろう。期限を延期しても3月中に首脳会談という舞台設定で決着をアピールする流れではないか。この問題が中国実体経済に及ぼした悪影響の大きさから、大規模な反動が起こる可能性もあり得る。その後は英国ブレグジット問題とグローバル景気動向に関心が移るだろう。日本株は昨年末の20%強の大幅調整で、世界経済のリスク要因や成長率鈍化を先取りした。しかし、



実体経済は底堅く金融政策も有効に機能している。長期上昇波動は持続している見て押し目買いで臨みたい。日経平均で半値戻しと26週移動平均が重なる2万1700円が当面のポイント。早期に上抜ければ期末に向け一段高

## 相場展望

もう。5G関連のアンリツ(6754)、業績上振れで村田製(6981)に注目。

## 購読会員募集中!

証券市場新聞では、購読会員を募集しています。

高野恭壽の  
株式情報 **これでどや!!**

大阪で600人越えの集客を記録、アンケート調査で「是非聞きたい講師」全国第1位  
人気株式評論家 高野恭壽の株式マガジン!

<https://marketpress.jp/kabu-takano/>

証券市場新聞 公式メールマガジン

優良銘柄に加えて新興銘柄のタイムリーな限定情報が満載!

<https://www.mag2.com/m/0001678061.html>

今週の

# 活躍期待銘柄



## ネクストジェン(3842)

### 5G通信でビジネスチャンス

ネクストジェン(3842)の株価は2000円台乗せから昨年10月2日の高値2120円を上抜いてきた。テーマに乗る材料から5月22日の昨年来高値2719円を目指す展開に期待したい。

次世代通信網(NGN)の制御システム開発会社で、SIP(通話制御プロトコル)では先行している。一部ライセンス製品販売の減少に伴う収益減少に加え、子会社設立に伴う人員増から19年3月期は第3四半期累計で4億6800万円の営業赤字になったが、大手移動通信事業者や欧州大手通信事業者向けにセキュリティ診断案件が増加しており、通期の営業利益では1億5000万円(前期実績1億3100万円)と大幅な増益での着地が見込まれる。5G通信サービスの拡大で同社のビジネスチャンス拡大へ。

昨年来高値の奪回に期待



## リーダー電子(6867)

### 2度増額も大幅上振れ余地

リーダー電子(6867)は800円絡みでの中段保ち合いを上放れてきた。映像関連分野に優位性を持つ電気計測器専門メーカーで、デジタル化と超高精細画像化の進展に対応した最先端製品開発を推進。5G関連では中核銘柄の一角で低迷を続けてきた業績も急ピッチで回復している。国内では4K映像フォーマット対応関連機器、海外は北米や中南米、中国などアジア向けは主力の放送関連機器が伸び、付加価値品の取り扱いが拡大、19年3月期は期中2度の上方修正で、連結経常利益2億7000万円(前期比3.2倍)を見込むが、通期予想に對する3Qの進捗率は87%に達し、大幅な上振れ余地を残す。期末一括配当を15円(前期8円)へ増配することも買い手が掛かりで、4ケタ大台乗せから一段高が期待できそう。

5G関連では中核銘柄の一角





# 星野三太郎の株街往来

## ～不安高まる市場再編～

第3回

半期決算の発表が一巡してきたところで、その詳細を確認する意味で企業取材を行っている。どの企業でも心配しているのは、米中貿易摩擦の影響と国内では10月からの消費増税だが、それとともにも多かつたのが上場市場の再編だ。

太朗さんが指摘しているが、東証1部銘柄の実に半数以上が、2部に降格すると、投資家からの信頼が落ちることやTOPIX組み入れによる機関投資家の買い需要がなくなり、株価が急落するところが想定される。そのため、時価総額500億円に満たない東証1部銘柄は、生き残りを賭けて何が何でも株価を上げてくるケースがでてきそうだが、努力の甲斐もなく降格となれば、取引先からのイメージ低下や株主の不安が高まり、影響は想像以上に大きくなると心配する企業が多かった。これからの議論でこの不安を払拭してほしいが、AIによるアルゴリズム売買で乱高下する先物への対策など取引所として、市場再編よりも優先すべき懸案が多いと思うのは筆者だけだろうか。企業や投資家の努力とは関係ない部分で負の部分が大きくなることだけは避けてほしい。



# 企業レター

## TOA 新開発拠点で成長加速 海外大型物件が業績を牽引



兵庫県宝塚市の拠点「ナレッジスクエア」

TOA (680)の19年3月9日(第3四半期)累計(2018年4月)12月の連結決算は売上高は324億2200万円(前年同期比8.1%増)、営業利益は24億5300万円(同41.1%増)と、営業利益は24億5300万円(同41.1%増)と、先端のシステムが採用さ

TOA (680)の19年3月9日(第3四半期)累計(2018年4月)12月の連結決算は売上高は324億2200万円(前年同期比8.1%増)、営業利益は24億5300万円(同41.1%増)と、先端のシステムが採用さ

5%増)と大幅な増益を達成した。公共向けの受注が多い同社は第4四半期に売上計上する比重が高く、第3四半期までの状況をみる限りハイレースの進捗となっており、これは「新たな分野の受注が拡大しており、エジプトや中国の空港施設向けなど大型物件を獲得した効果が出ている」(会社側)ため。同社は案内放送設備や非常用放送設備など国内の国際空港向けでトップシェアを誇っている。この実績を武器に海外では最先端のシステムが採用さ

国内の空港でも設備のリニューアル需要として海外で注目を指す方針だ。国内では、インフラ整備が進む施設に対して新システム「多言語放送サービス」のニーズが高まっていくうえ、カメラなどセキュリティ機器では、従来のアナログ機器からフルHDの映像を出力できるAHDカメラシステムへの更新需要も拡大している。通期は売上高470億円(前期比6.4%増)、営業利益34億円(同3.2%減)と減益となる従来見通しを据え置いたが、これは2020年12月の完成予定の宝塚市の開発拠点「ナレッジスクエア」など積極的な投資によるもの。ソリューション型ビジネスに対応した情報システム基盤の整備などを進め、防災分野を含めて、安心・安全に貢献する先端技術開発を進める方針。これが、中長期的な成長の牽引となる。

敏腕先物ディーラー  
**ハチロク**の裏話

戻り相場も上値重い？

2万1000円は下値抵抗ライン

先週の日経平均は薄商いの中、上値の重たい展開を想定する。米中貿易交渉の進展期待に下支えされ続伸、週初より窓を開けて上昇し、一時2万1500円の節目を回復した。

21日より貿易協議が行われているが、この原稿を執筆しているときにはまだ結果はわからない。相場は今回の協議ですべてが解決するのではなく、60日の協議延長を見通しているようである。この線で動くなら相場には大きな影響はないと思われる。

米国市場が戻りを試す展開となつているうちは日本市場も連れ高の状況となるが、英国のEU離脱問題やEU全体の景気減速問題、さらに、最近注目されつつある第2のサブプライムローンといわれるローン担保証券（CLO）問題など、相場にマイナスに働く要因が顕著化し始めていること

は頭の片隅においておくたう。展開となる

このラインを抜いてくるには高の増加が必要になる。抜いてくることには限である。2万2000円を目指す

に位置し、6週移動平均線もこの水準

2万1000円割れの水準では日足の転換線や25日移動平均線があり、この位置が下値抵抗ラインとして機能してこよう。今週は「突っ込み買いの噴き値売り」で対処したい。

（ハチロク）

先週の上昇は安値切り上げ型で上昇してきており、目先は2万1318円74

銭を割つてくると調整感が漂う。その場合、下値はボリンジャーバンド△1σの2万1240円処、週初の窓埋めの2万1051円51銭が下値メドとして上げられよう。

今週のスケジュール

- 23日 独2月Ifo景況感指数 (18:0)
- 25日 1月企業向けサービス価格指数 (8:50)
- 26日 米12月S&PコアロジックCS住宅価格指数 (23:30)  
米2月CB消費者信頼感指数 (27日0:00)
- 27日 国際水素・燃料電池展 (27日~3/1)  
米朝首脳会談 (~28日ベトナム)  
英議会はEU離脱案の採決  
米1月中古住宅販売仮契約 (28日0:00)
- 28日 1月鉱工業生産、1月商業動態統計 (8:50)  
中国2月製造業PMI (10:00)  
米10-12月期GDP (22:30)
- 1日 1月労働力調査・有効求人倍率 (8:30)  
10-12月期法人企業統計 (8:50)  
米2月ISM製造業景況指数 (2日0:00)

編集後記

21日は新興バイオ株デーというべき一日だった。一番人気のアンジェスは株式評論家の高野恭壽氏が弊紙コラムで一貫推奨してきた銘柄で、週末にかけ連続S高に買われ相場つきが一変。遺伝子治療薬の重症虚血肢適応が承認され、再生医療への期待が大きく膨らんだ。経済ニュース番組のインタビュアーに応じた山田英社長は「常にリスクを背負いながら開発を続けてきた」と胸を張っていた。ただ、リスクを背負うのは赤字続きのバイオベンチャーに投資する側も同じ。早期収益化を願う。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。